

歴史講座「胡四王山遺跡の発掘調査について」のご案内

期日：令和3年11月24日(水)10時00分～11時30分

会場：矢沢振興センター 大広間

演題：「胡四王山遺跡の発掘調査について」

講師：花巻市博物館館長 高橋信雄先生

主催：胡四王史談会・矢沢地域振興会

【花巻における遺跡発掘調査の先駆けと言われている胡四王山遺跡の発掘調査が、1957年(昭和32年)に東京大学東洋文化研究所により行われています。

高橋館長からこの調査を含め胡四王山遺跡について興味深いお話しをしていただきます。】



史談会発足時 記念講演の高橋館長



胡四王神社

● 今年度は高齢者介護予防講座を実施する予定です！

昨年度、コロナ禍により中止としました高齢者介護予防講座は、現在のレベル1の状況が変わらないことが前提になりますが、今年度は実施したいと考えております。現在のところ、12月の「やまぼうし」で詳細についてお知らせし、年明けから実施する方向で計画を立てたいと思います。

なお、矢沢地域振興会の高齢者対策事業部会では、矢沢地区の高齢者等が矢沢振興センターを利用して、10人以上で健康促進事業(生涯学習講師付)を行っているサークル等に対し、高齢者介護予防支援事業として「講師謝礼」を1回5,000円以内、2回まで助成いたします(今年度実施分)。

『詳細は矢沢振興センター(☎23-2171)へお問い合わせください。』



介護予防講座に参加の皆さん

● タウンやさわ第38号発行へ！編集会議

平成4年2月の発行を目指し編集会議を重ねています。既に10名の方からご寄稿を頂き約30ページとなる予定です。乞うご期待！



= 矢沢地区地域リーダー研修会 =

期日：令和3年11月26日(金)18時～19時

会場：矢沢振興センター 大広間

内容：「救命入門コース(心肺蘇生法・AED含む)」

講師：花巻市消防本部緊急救助係 数名

主催：矢沢地域振興会

矢沢地区教育振興協議会

矢沢地区自治公民館連絡協議会

■ 矢沢振興センター改修工事進捗状況
【11月1日(月)～11月13日(土)】

- ・外部工事(建築)
 - 外壁パターン塗り・中塗り(1～6日)
 - 上塗り・軒天縦桶塗装・網戸取付け(8～13日)
- ・調理室
 - 配管工事(8～12日)
- ・講堂
 - 巾木撤去(5～6日)
 - 床既存塗膜除去・コートライン復旧・床塗り(8～13日)
- ・事務室
 - 各所配線器具更新(8～13日)
- ・和室 AB
 - 各所配線器具更新(8～13日)



高松第三行政区ふるさと地域協議会へ取材

10月24日、高松第三行政区ふるさと地域協議会(神山儀悦会長)では、一般財団法人地域活性化センターの担当者から平良木公民館で取材を受けました。当日の出席者は神山会長をはじめ発起人の藤本侃さん、小原貞一さん、藤本邦明さん、熊谷哲周さん、移住者のお二人、川村憲一行政区長、鈴木淳子花巻市地域づくり課長、佐藤峰樹市議会議員、矢沢地域振興会の11名が出席。熊谷事務局長の司会で進められ、地域活性化センターの那須広則地域創生課長に発足当時の状況、会の活動、今後の課題等を説明しました。

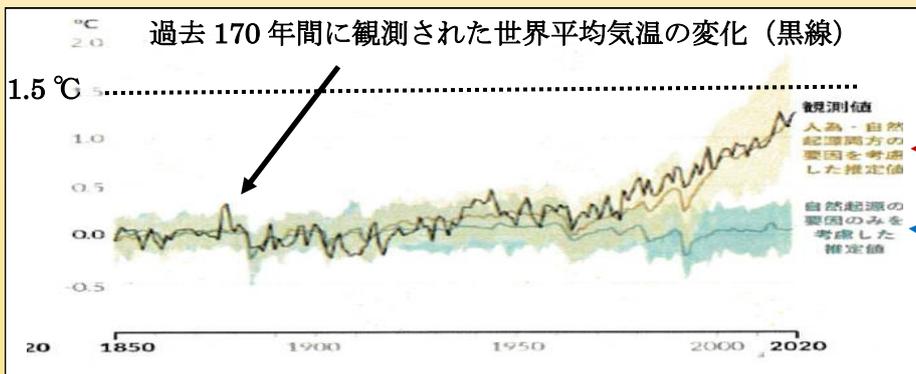


【事務局員のつぶやき】(温室効果ガスの増加は人間活動が主たる原因であることは疑う余地がない！)

2007年に、人為的な地球温暖化に対する人々の意識を高めた功績に基づき、「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」はアル・ゴア米国元副大統領と共にノーベル平和賞を受賞しました。そしてこの度は、真鍋叔郎博士(米国プリンストン大学上級研究員)が「地球の気候をコンピューターで再現する方法を開発し、気候変動(地球温暖化)の予測に関する研究の先駆者として高く評価され」気象学分野で初めてノーベル物理学賞を受賞しました。このことは地球温暖化が全世界に及ぼす影響の大きさを物語っており、真鍋博士の先見性の高さを証明するものと言えます。

本来、約5年に一回発表と言われていたIPCCの評価報告書は、今年の8月9日に第6次評価報告書の最初のものである第一作業部会報告(自然科学的根拠)を8年ぶりに発表しました。その内容は、前回の報告書では「気候システムの温暖化については疑う余地がない」としたものの、「人間活動が20世紀半ば以降に観測された温暖化の主な要因であった**可能性が極めて高い**」と述べるにとどまっていたものが、今回は「人間の影響が大気、海洋及び陸域を温暖化させてきたことには**疑う余地がない**」とし、「産業革命以降の大気中の二酸化炭素等温室効果ガスの増加は、人間活動の結果であり、人間の影響が、大気・海洋・雪氷圏・生物圏で観測されている多くの変化の**主たる原因であることは疑う余地がない**」とより強い表現で断じています。

また、この報告書では社会生活において産業革命前の気温から1.5℃以内の上昇を抑えることの重要性が強調されています。しかし既にかかなりの気温上昇(下図参照)であることから、この目的達成は現状ではかなり厳しい状況にあるといえ、世界各国の対応が注目されています。



観測値
人為・自然起源両方の要因を考慮した推定値

自然起源の要因のみを考慮した推定値